

1 自己評価及び外部評価【1階 春夏秋冬ユニット】

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1192700100		
法人名	医療法人社団薫風会		
事業所名	グループホームかおる狭山		
所在地	埼玉県狭山市柏原178番地の3		
自己評価作成日	令和2年1月10日	評価結果市町村受理日	令和2年3月5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/11/index.php?action=kouhyou_detail_2018_022_kani=true&JigyosyoCd=1192700100-00&PrefCd=11&VersionCd=022

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 埼玉県介護支援専門員協会		
所在地	埼玉県さいたま市浦和区仲町2-13-8 ほまれ会館3階		
訪問調査日	令和2年1月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当ホームは緑豊かな自然に囲まれた住宅街にあります。調理専任の職員を配置し、手間と時間をかけた手作りの食事を提供しています。事務長を配置する事により、管理者は事務業務に手を散らされる事がなく、介護現場に密に入り込み介護職員の指導ができ、清掃専門の職員もあり、管理者を含む介護職員は介護に特化され、利用者様一人ひとりと密に接することができ、質の高いケアが可能となっています。入居者様の通院には事務長と介護職員が同行し、ご家族様の負担を軽減しています。カラオケや音楽療法や習字の会などで楽しんでいただいています。また、500坪の敷地には庭園がありボランティア様が管理しています。庭園では様々な野菜が栽培され、入居者様も栽培のお手伝いをして収穫し、食事に取り入れています。そして毎週1回の医師(施設長)の訪問診療、看護師が毎週2回訪問し、利用者様の様子を診ており、医師・看護師と連携し24時間のサポート体制が整っていて、入居者様・ご家族様が安心していただいています。また、入居者様を最期まで支援する取り組みをしており、これまで看取りも行ってきました。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

自然が多く残り閑静の住宅地の中に施設があり、2階建てエレベーター付きで1階と2階にユニットが分かれています。グループホーム施設長が医師で主治医であるので、重度化や終末期での施設の運営に、本人及び家族や職員からも安心感がみられる。毎週医師の訪問診療がなされ、週2回訪問看護師の来訪もあり、施設職員から毎日医師への報告が書面でなされ、病状に応じた治療や医師の指示に応じたケアの実施ができています。運営推進会議上で挙げられた課題に対しての取り組みもみられる。また、施設に管理者とは異なる「事務長」を配置することで、管理者は入居者のケアに集中して取り組むことができ、事務長は施設の関係機関や行政機関との連携を図ることで、地域に根ざした活動がなされている。職員も、入社後1年未満から5年が経過した者まで幅広いが、法人の理念に基づいた活動をそれぞれが考えながら、日々のケアに取り組んでいる様子が伺える。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関、事務室等に理念を掲示している。 朝礼で職員全員で唱和している。 ネット研修でも理念について学んでいる。	毎日の朝礼は、職員全員が参加し、申し送りの他に、理念を唱和し、理念の周知を図っている。また、毎週木曜日にネット研修を行い、管理者と職員とで意見交換がなされている。	各職員での理念に対する介護支援がなされるよう、職員間相互での主体的な取り組みが希望される。また、職能別などのレベルアップ研修の検討も期待される。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	出勤・退勤時、または外出した際は、近所の方達と挨拶をしている。 当施設に住所がある入居者様で参加ができる人は地域の行事(盆踊りや敬老会)に参加している。	地域の盆踊りや敬老会に参加している。また、民生委員や地元に住んでいる職員から地域の情報を得て、地域でのイベントに参加している。昨年は、入居者数名で「奥富かかし祭り」に参加した。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	社協よりボランティアを受け入れ、ホームの様子をみていただく。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一回、開催している会議には、狭山市職員、地域包括支援センター職員、地元民生委員、入居者様ご家族様に参加していただき、当施設の状況や取組みを報告すると共に、参加された皆様から率直なご意見を頂戴し、サービス向上に活かしている。	2ヶ月に1回運営推進会議を開催し、市職員や地域包括支援センター職員、民生委員、入居者の家族などが毎回参加している。会議を通じて、転倒防止策が講じられたり、筋力アップに向けた取り組みが随時導入されている。また、施設長が医師であるので、医療面の説明などが行われている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事務長が市の担当者と相談しながらホームの運営に努めている。	施設の事務長が随時、市の担当部署に訪れ、意見交換が行われ、顔が見える関係づくりを構築している。また、運営推進会議において、市職員の出席により、他の施設の状況が伝えられ、施設運営に反映されている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	安全の為、玄関は施錠しているが、緊急性、非代替性、切迫性のすべて満たさない限り、またご入居者様ご家族様の同意を得ない限りは身体拘束は行わない。 ネット研修で身体拘束廃止の研修も行っている。	身体拘束に関する委員会が開催され、研修により身体拘束について職員が理解している。現在、離床センサーを使用している入居者は3名、身体拘束が必要とされている入居者が1名おり、職員間の共通認識のもとで行われている。また、ケアプランに反映している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ネット研修・御茶ノ水サービス学院を受講、職員の知識水準向上に繋げている。 また、虐待の見過ごしがないように常に注意を払っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	特別な勉強会は行っていないが、職員各自がそれぞれ学び、職員会議で話し合う。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事務長がどんな事でも分かりやすく丁寧に説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時、事務長が何でも話しやすい雰囲気を作っている	入居者の家族が面会に来られた際に、食事の嗜好などを聞き取り、食事箋を変更したりしている。玄関に意見箱が設置され、ご意見があれば、すぐに対応し、フィードバックもされている。医療面の意見は、施設長が医師のため、その都度説明をしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月全体会議を実施し、職員の意見を聞く機会を設けている。 会議に参加できない職員には意見を上げてもらっている。	月1回、業務後に全体会議を開催し、全入居者のケース会議、事故防止委員会の報告などを行っている。会議に参加できない職員に対しては、会議で決まった内容を回覧し情報を共有している。	月1回、業務後に開催する全体会議の時間が3時間以上要することがあり、会議にかかる職員の負担軽減と共に、質の向上が望まれる。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表である理事長の意を汲み取り、事務長が各自、向上心を持って働けるような施設を作っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修や講習を受講し、伝達講習により、施設内での共有に努めている。 常勤職員と先輩職員は、新任職員の指導・育成に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	狭山市主催の研修に参加(令和元年12月11日)		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	普段の日常生活の中で、表情、反応に注意し、観察している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時やケアプランの説明時の来所の際は、安心感を持っていただくような関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者様ご家族様から情報を聞き、優先すべき事から支援するように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様とコミュニケーションをとりながら、食事の支度、食器拭き、洗濯物たたみ等、その人に出来る事を一緒にするようにしている。入居者様がお茶を入れて下さるときもある。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には施設での日々の暮らしの様子を伝えるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様と外食される入居者様もいます。時々ご友人が訪れる方もいらっしゃいます。	馴染みの歯科や眼科がある場合には、施設で送迎を行い通院支援を行っている。また、家族が面会に来た際に、一緒に食事をしたり、自宅周辺まで外出することもある。馴染みの関係づくりを大切にしており年賀状作りは、職員の協力のもとで行われている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関わり合いの際、職員が間に入り、良好な関係づくりに努める。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ほとんど看取りで退所している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	理念に基づき努める。	入居時や面会時の際に、家族からの聞き取りにより、在宅時になされてきた趣味嗜好が継続できるよう支援している。また、意思疎通が困難な場合であっても、家族からの情報で本人本位の取り組みを行っている。畑が好きな方は、畑作りなどが行われ、その人らしい支援が行われている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今まで、どの様な生活をして来たのか、普段よりコミュニケーションをとり把握するように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者様の状態、状況等は適宜、申し送りノートに記入し、職員全員で情報共有している。 また、口頭でも伝えている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	朝礼で職員一人ひとり一分間トークをし、情報を共有している。	毎朝の朝礼の際に、入居者全員を各1分程度の時間で申し送りを行っている。また、介護計画については、本人や家族から要望などを聞き取り、介護計画に反映されている。ケアプランを回覧し、ケア方針の共通化に取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録、申し送りノート、ケース会議を回覧し、職員全員が把握できるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様の体調がよくない場合は、Dr.へ報告、Nsにも診ていただく様にしている。 通院は事務長と介護職員が同行し通院している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	施設近隣への散歩やボランティアを依頼し季節を感じていただけるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	施設長が医師で、全入居者様のかかりつけ医(主治医)は施設長であり、毎週水曜日に往診を行っている。 毎朝、昨夜の入居者様の健康状態等を主治医にFAXで報告している。	毎週水曜日に主治医の訪問診療がなされ、週2回看護師の訪問もあることで、病状に即した治療がなされている。また、夜間でも、施設長である主治医や看護師と連絡がとれることで、入居者が安心して生活を送っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師による週二回(火曜日・金曜日)の定期的な訪問により、入居者様の健康管理を行っており、入居者様の異変時には24時間連絡取れる体制となっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時は、事務長・介護職員が同行し、病院関係者と情報を共有している。 早期退院に向け主治医の意向と入院先の先生の意向を事務長が調整し退院支援の対応を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時にご家族様等に重度化(終末期)した場合の確認を取るとともに当施設の重度化(終末期)の指針を説明し、入居後も随時、重度化(終末期)した場合の確認をご家族様等に確認している。	入居時に、事務長より重度化や終末期における対応について、家族への説明を行い、家族の意向に沿った治療がなされている。その後も病状の経過によっては、随時主治医と家族とで話し合いがなされている。医療との連携をはかり法人内でチームを組んで看取りを行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアル等を整備し、全職員が把握できる様にしている。 定期的に、訪問看護師や消防署員より応急手当の実践的な訓練を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対策計画を作成・整備し、全職員が避難方法等を理解している。 また、令和1年の台風19号の際は、万が一を想定し、近隣の特養に避難の受入れをしていただき、全入居者様が無事に避難し、翌日の午前中に無事に当施設へ事故なく戻れた。	法人にて策定されている防災マニュアルがあり、数か月おきに備蓄品の確認を行っている。また、年2回(春・秋)避難訓練を入居者全員参加で実施している。災害時には、近隣の特別養護老人ホームとの連携体制が整っている。また、利用者ごとの対応すべく支援ポイントを記載されたカードも準備されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様への声掛けや振る舞いに注意している。 入居者様の居室へ入る時は、入室の許可をとるなどプライバシーに配慮している。	可能な限り同性介護に努めケアを行っている。入居者それぞれの出身地や職業などによって、入居者への言葉かけや接遇を変えるなど工夫している。ボランティアで訪れる方にも、事前に守秘義務の説明や入居者の情報共有を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	散歩の希望や食事の希望、リビングの配置や席などの希望を聞き、自己決定できる様に支援している。 また、会話の中で何をやりたいかを把握し、ご本人様に実際に何を行うかを決めていただく働きかけをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	散歩の希望があれば、職員同行し可能な限り外出支援を行っている。 畑の収穫を行いたい入居者様は施設内の畑の収穫を手伝っていただいている。 また、室内で自分のペースで過ごしたい入居者様は職員は見守り支援をし、希望に沿った支援に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自身で着る服を選んで着ていただいている。 自己選択できない入居者様は職員が季節に合わせた服を選び支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	会話の中で好きな食べ物を聞き、可能な限り献立に取り入れている。 食後の片づけや食器拭きを手伝っていただいている。	週4日は、調理専任スタッフが来訪している。施設内の畑で収穫した野菜を生かし季節を感じた献立や、入居者の希望に沿った献立作りを行っている。また、食器は入居者がこれまで使用していたもので提供されている。食事時間は、のんびりとした雰囲気があり、食後には口腔ケアを実施している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者様個々の食べやすい食事形態で食事をご提供し、完食していただけるように支援している。 調理専任の職員を雇用し、栄養バランスを考えた献立を作成している。 色々な飲料をご用意し、十分な水分摂取できるように支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後、口腔ケアの声掛けを行い、支援が必要な入居者様には、口腔ケアシートなどを使用し支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	動作・排泄確認表により排泄パターンを把握すると共に、入居者様の何気ない行動を読み取って、トイレ誘導を行い、トイレで排泄できるように支援している。	フロアにPCが配置されており、職員はPC上の介護記録を確認し、その日の排泄の頻度に応じ個別に対応してトイレへの誘導を行っている。また、排泄にかかる支援を行う際は、本人が落ち着きやすい環境にしている。また、プライバシーの観点から入居者の居室で対応をすることもある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	畑で収穫した野菜等で食物繊維豊富な食事を提供し、適度な運動(散歩やテレビ体操、室内歩行訓練等)を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2～3回入浴していただいている。 希望があれば毎日入浴もできる体制で支援を行っている。 入浴拒否される入居者様は、時間をづらしたり、翌日に変更したりし、対応をしている。	週2・3回の入浴を行っている。特に決められた曜日を設けず、介護記録を確認し、入浴の間隔を踏まえ、毎日3人程度入浴が行われるよう支援している。各階に浴室があり1階は、重度化に備え、リフト浴が設置されている。冬至には、ゆず湯にしたり、入浴剤の希望があれば対応している。できる限り同性介護で入浴介護をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者様の個々の生活習慣を尊重し、日中にベッドで休息されています。 衛生を考慮し、週1回以上はリネン交換を行い、夜は室温調整を行い安眠できるように支援をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者様の一人1人の服薬ファイルを完備し、職員は常に確認できるようにしている。 服薬時は「入居者様のお名前」「日にち」「いつの薬(昼食前 など)」の3点を読み上げ、確実に服薬された事を確認し、服薬後、異変があった場合はすぐに主治医、薬剤師に連絡できる体制を構築している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎週金曜日開催の音楽療法、第一・第三土曜日開催の書道教室への参加や、施設内での畑作業、毎月季節に合わせた行事を行い楽しませている。 また、これまでの生活歴を活かし、行事開催の準備の手伝いをしていただいている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	近隣のお寺へ散歩に出かけたり、車で智光山公園へ行き、散策をしている。 また、施設内の畑で畑作業をしたり庭での日光浴を行っている。 また、面会に来所されたご家族様はご本人様と外食に行ったりしている。	週1回、買い物支援を行っており入居者の個人的な買い物に行っている。施設の敷地内にミカン畑があり、入居者数名でグループになり、ミカン狩りを行った。外出が困難な入居者でも、窓際での日光浴や施設の催しで参加できるよう、職員が配慮している。週1回、音楽療法の先生が来所し、外出できない方も楽しめる試みをしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族様からお金をお預かりし、施設で管理を行い、ご本人様のご希望の品を購入している。また、職員が同行し、近隣スーパーへ買物に行ったりしている。お金を所持している入居者様は少数である。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人様から要望があった場合はいつでも電話ができるように対応をしている。ご本人様宛に受電した場合は取り次いでいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は温度を一定に保つ様にし、動線を確保している。季節を感じていただく為に、花などを飾っている。	居室内は、入居者が安心して過ごせるよう、カーテンを閉めたり、季節に応じた張り紙を掲示するなどの対応を行っている。また、週1回シーツ交換をし、居室の換気や衛生面が保たれるよう取り組んでいる。空調で温度管理し共用の空間では、寒い冬でも適度な温度に保たれている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブル席やソファの配置を工夫し一人でいれる場所を作ったり、入居者様同士語り合う場所を作ったりし、ご本人様が過ごしやすい工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅で使用していた家具を持ってこられたり、ご家族様の写真を飾ったりされ、入居者様一人1人が居室で過ごしやすいうに工夫している。	馴染みの物を持ち込むことが可能となっているがベッドは施設が用意した電動ベッドを使用している。入居時に、家族と話し合い、本人の馴染みの家具などを用意している。その後も、症状によっては、居室に花を飾り、家族の写真などを配置することで、安心して過ごせる環境作りを行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	共有部分には手すりが付いており、トイレも分かりやすく表示し、自立した生活を送れるように工夫している。		

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	1 (1)	当施設の理念の共有と実践が伴っていない	職員全員が当施設の理念共有し、理念に基づいた介護支援が入居者様に対して提供できる取組みを行う。	研修へ参加し、スキルアップを目指す。	6ヶ月
2	11 (7)	施設運営に関する会議の時間がかかりすぎている	業務後に短時間で会議が終わるように取り組む	議題の順位付けをし、順位が高い項目から話し合いをし、時間短縮を目指す。	6ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。